ふるさとの杜再生プロジェクト

井土地区避難の丘から
冒険あそび場を望む

仙台市では、海岸公園や海岸防災林の再生に向けた「植える」「育てる」「支える」をキーワードとする「ふるさとの杜再生プロジェクト」による植樹活動を行うとともに、苗木の成長を支える育樹活動も行っています。

第4回育樹会

8月26日（土）、第4回育樹会を海岸公園（蒲生地区）2016年3月植樹エリアで開催しました。開催直前の雨模様がうそのように晴天に恵まれ、参加いただいた57名の方とともに苗木まわりの除草作業や苗木の本数計測・樹高測定を行いました。

昨年の育樹会から苗木の本数が若干減っていたものの、樹高が1mほどに伸びているものもあり、順調に生育している様子を確認することができました。参加者からは「苗木の成長を見るのが楽しい」「除草後の苗木が立ち並ぶ姿をうれしく思った」などの声が聞かれました。樹木の特性レクチャーでは仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議会長から、コナラやクヌギ等6種類の苗木について説明されました。

第2部の自然観察会では東北学院大学、平吹先生のガイドで貞山運河を散策し、津波に耐え残った松林と実生から育つマツの苗木を見学しました。参加者からは「災害から負けずに成長している植物、動物の生命力を感じた」「マツの成長に感激した」などの感想が寄せられました。

10月9日（祝・月）、海岸公園（荒浜地区）においても第5回育樹会を実施します。苗木まわりの除草作業にあわせて、ミニビクニックや荒浜のガイドツアーも行います。皆様お気軽にご参加ください。

埼玉県立鶴ヶ島清風高校 育樹ボランティア

8月21日（月）海岸公園（蒲生地区）にて、埼玉県立鶴ヶ島清風高校の有志19名によるボランティア活動が行われました。同校は2015年より地元の南蒲生町内会とともに修学旅行や夏季ボランティアにおいて「東日本大震災ボランティア」を行っており、埼玉県教育委員会の「ボランティアチャレンジプログラム」にも認定されています。

1泊2日の日程の中の、1日目にふるさとの杜再生プロジェクトの市民植樹（ことし6月植樹）エリアの苗木を雑草から守るため、苗木の目印付けと除草作業を行いました。生徒の皆さんは観察眼が鋭く、すぐに苗木と雑草の違いを判別し、蓮目の曇り空と蒸し暑い天候の中でも懸命に作業してくれました。2日目は南蒲生浄化センターや3.11メモリアル交流館など震災のメモリアル施設を見学し、事後学習として「かべ新聞」の作成や全校生徒に向けての報告会も行われました。今後もボランティア交流を続けていきたいと考えています。

海岸公園の整備が進んでいます

海岸公園（井土地区）は平成30年度内の開園をめざし、再整備を進めています。

仙台ふるさとの杜再生プロジェクト facebookにて活動状況を配信しています

仙台ふるさとの杜再生プロジェクト

ふるさとの杜再生プロジェクトに関するお問い合わせは、仙台市建設局百年の杜推進課 022-214-8389まで

2017あしたのみどりキャンペーン 中間特集

人を笑顔に、地域に潤いを。
わたしの好きな「みどりのある風景」

2017あしたのみどりキャンペーンは、「みどりを　楽しみ　育む」をテーマに展開。WEBサイトではわたしの好きな「みどりのある風景」を投稿いただき公開しています。今回の紙面特集ではその中から一部をご紹介します。人を笑顔にし、ときには地域のコミュニティーも育むみどり。50年後も100年後も、みどり豊かな杜の都であり続けるように、まずは身近なみどりに親しみ、楽しみながら、みんなで「あしたのみどり」を育んでいきましょう。

宮城蔵王 すいせん祭り…（蔵王町）
赤ちゃんのころ以来、20年ぶりに行ってきました。一面の黄色いじゅうたんにぐおどりました。
（2017年5月撮影）by：まりちゃん さん

石越町南郷仲江付近…（登米市）
菜駒山と田植えが終ったばかりの田んぼに東北本線の電車が映り込んでいます。この時期にしか見られない景色です。
（2017年5月撮影）by：ダーチー さん

宮城県民の森 中央記念館前…（利府町）
一年間季節の変化を楽しめます。これは六月のサツキの花変化を求めて撮影してます。
（2017年6月撮影）by：TAKA さん

定禅寺通のケヤキ並木とブロンズ像（2016年5月撮影）

花やみどりが大好きで、県内外の各地に出かけます。地元仙台では、やっぱり定禅寺通のケヤキ並木が好きですね。高校・大学と通学路にもなっていたので、季節の移り変わりをいつも感じていました。中でも春、新緑のころの明るいみどりが一番好き。友だちと一緒に「みどりの季節だね」って話しながら、通っていた当時を思い出します。県外の方にも是非見て欲しい、私が自慢したい「みどりのある風景」です。

仙台市 「まりちゃん」さんこと　安住まりか さん

三本木 ひまわりの丘…（大崎市）
6haに広がるおよそ40万本のひまわり。観光者の笑顔と太陽に向かって微笑みかけるひまわりの姿が輝く名所となっています。（2017年8月撮影）by：おんみ さん

長沼フートピア…（登米市）
こどもの日に息子二人を連れて遊びに行きました。ローラー滑り台やアスレチックなどがあり親子連れがいっぱいでした。むすび丸のキャラクターなどがきれいにお花で造られ親の私も癒される景色でした。
（2017年5月撮影）by：ミウラカズコ さん

農業園芸センターのバラ祭り…（仙台市）
散策中、バラの香りが風に乗ってやってきて、フラワーセラピーのようでした。
（2017年6月撮影）by：ちばさとみ さん

やくらいガーデン…（加美町）
やくらいガーデン内ベンチでの1コマです。この方々の背中から伝わってくるのは、"あの頃"と変わらない「少年の心」。この写真を見るたびに、「私もこうなりたい…」と、将来を思い描くのです。
（2016年6月撮影）by：ちーこ さん

トヤケ森山から北上川と石巻市街地を望む（2017年8月撮影）

友人に連れられ、ここから始めて見た石巻の夜景は、一つ一つの家の灯りがとてもやさしく、温かく感じられたことを覚えています。もちろん青空のもと眼下に広がる景色は雄大で美しく、夕暮れには神秘的な光が別の表情を見せてくれます。一方、散歩がてら日常の身近な場所にちりばめられている、ささやかなみどりの発見にも幸せを感じます。どちらも大切にしたい「みどりのある風景」です。

石巻市 「ちーこ」さんこと　阿部康介 さん

角田市北部…（角田市）
5月になると、水が張られた田の水面に「逆さ蔵王」が現れる、季節限定の田園風景です。
（2017年5月撮影）by：自由人 さん

太白区秋保地区…（仙台市）
実りの秋とみどりの恵み、稲穂の歌声が聞こえてきました。あした 天気になーれ（^^♪ 美味しくなりますよ。
（2017年9月撮影）by：八木山のおやじバンド さん

南蔵王野営場の近くの牧草地…（白石市）
残雪の蔵王の山並み、芽吹き出した広葉樹の森の新緑、その中に咲く山桜、本当に美しい場所です。新緑ドライブに行って偶然見つけた絶景ポイント、秋の紅葉の季節もきっと素晴らしい。
（2017年5月撮影）by：au さん

グランディ21の公園…（利府町）
公園で子供を遊ばせながら、散歩も出来て、リフレッシュに最適な場所です。
（2017年7月撮影）by：にいりん さん

みちのく杜の湖畔公園…（川崎町）
みちのく杜の湖畔公園では赤、黄、白、ピンクのチューリップが芝桜と競うように、今が旬とばかり咲き誇っていました。
（2016年4月撮影）by：熊谷健一 さん

やくらいガーデン…（加美町）
木陰で鳥のさえずりを聴きながら、風でカラカラ踊るオブジェを眺める。時間を忘れられる癒しのひとときです。
（2017年5月撮影）by：yoshi さん

みちのく湖畔公園…（川崎町）
チューリップが見ごろで満開でした。また違う季節にも行きたいですね。
（2017年5月撮影）by：まりちゃん さん

2017あしたのみどりキャンペーン　12.31(Sun)まで

みどりを楽しもう! わたしの好きな「みどりのある風景」募集中

宮城県内で、あなたの好きな公園、森林、田畑、緑地、公共施設、民間施設、道路、街角、一般家庭、その他で、みどりや花などがあるお気に入りの場所の情報を、画像データにコメントを添えて投稿してください。お寄せいただいた情報は、あしたのみどりキャンペーンのWEBサイト内および一部を河北新報紙面で紹介させていただきます。

応募期間：11月30日(木)まで
公開期間：12月31日(日)まで
期間中ご応募いただいた情報を随時公開

応募方法 あしたのみどりキャンペーンWEBサイトの投稿フォームから必要事項を入力し、画像を添付の上、投稿してください。

投稿いただいた方には抽選でプレゼントが当たるチャンスも!
詳しくは、WEBサイトをご覧ください

抽選でプレゼント!

仙台市認定 緑の活動団体　特定非営利活動法人 都市デザインワークス

津波で被害を受けた仙台平野の居久根（屋敷林）を、市民や専門家など多様な主体が関わりながら、現在の暮らしに沿った形で次代に継承していく、「仙台平野『みんなの居久根』プロジェクト」を推進。植樹活動や、残った居久根から自力で再生した実生苗の移植などを実施しています。

南蒲生地区や新浜地区などで、これまでに10カ所を超える敷地で植樹を行い、地域の方たちと一緒に育樹活動やその成長を見守り続けています。

南蒲生地区での苗木の植樹会（2014年11月撮影）

植えられた苗木の成長の様子。こんなに大きくなりました（2017年8月撮影）

私の好きな「みどりのある風景」

仙台市東部地域の居久根

震災復興まちづくりのお手伝いを通じ、この地を訪れていますが、ほとんどのみどりがなくなった中、何本か生き残った大きな木の姿に魅かれます。周囲からも目立つランドマーク的な存在で、遠くから車で走ってきてこの木を見ると、「ああ、新浜まできたな」と、なぜか安心します。この地域の象徴的な存在だと感じています。

地域の暮らしとともにあった居久根。その一部の木が残ったわけですが、木や森を育てていくには10年20年、それ以上の長い時間が必要です。気長に地元の人たちの声を聞き、状況を見ながらお手伝いを続けていきたいと思っています。

津波に耐え、一部に大きな木が残る宮城野区新浜地区（2017年8月撮影）

都市デザインワークス　岡井健 さん

仙台市認定 緑の活動団体　真美沢公園を美しくする会

公園内の除草作業に集まった会のメンバー

地下鉄南北線黒松駅に隣接する真美沢公園の自然環境を整備し、地域コミュニケーションの場として活用することで、地域を活性することを目的に2015年1月に発足しました。現在では約30名の会員を中心に、3つの「や」（やれる時に、やれる人が、やれることを）をモットーとして、地域住民や地元の小中学校などと連携し、育樹・除草などの環境整備をはじめ、桜まつりや野外コンサートなどのイベントも開催。来る11月5日には、昨年に続き仙台フィルハーモニー管弦楽団メンバーによる木管五重奏団のコンサートが予定されています。

昨年からスタートした植樹活動は、ことし3月、「春の植樹祭」として実施。色とりどりの花に囲まれた公園を想像しながら、ドウダンツツジやアジサイ、アヤメの球根などが植えられました。

春の植樹祭の様子。小中学生から大人まで、約70名が参加し行われました

森林公園として、みどり豊かな自然を満喫できる真美沢公園（2017年9月撮影）

真美沢公園を美しくする会 事務局長 尾地浩 さん

私の好きな「みどりのある風景」

仙台市泉区 真美沢公園

この公園は地下鉄の駅に近く、周辺には3つの小中学校があります。子どもたちや小さな子ども連れのママたちが、安全にのびのびと遊んで欲しい、そんな環境をつくりたいという思いで活動を続けています。除草などの作業をしていると、「すごくきれいになって、入れるようになりました」と声をかけられたり、小学校の「総合的な学習」での講師の依頼、自然観察会での中学校との連携など、地域の方や学校からも理解されてきたことを実感しています。今後は、もっと若い世代の人も関心を持って公園を利用してもらいたいです。人が入ることで環境の整備も進み、それが新たな人を呼び込むという循環につながるはずです。会では継続して桜の植樹を行っていますので、将来的には桜の名所にして、たくさんの人が集まる公園にしていきたいと思っています。

企画・制作／河北新報社営業局